

教育関係者 各位

日本ピア・サポート学会北海道支部 主催  
北海道教育委員会、日本ピア・サポート学会 後援

# ピア・サポート実践交流会&スキルアップ研修会

2013年7月27日(土)～28日(日)

ピア・サポートは仲間同士で支援することができる力をトレーニングやその後のサポート活動を通じて育成し、思いやり溢れる学校風土を醸成していく教育活動です。トレーニングを受けた子ども達が自分自身で考え、行動し、その豊かな発想と行動力で学校全体へも大きな影響力を発揮しています。北海道でも多くの実践例がありますので、その一部を公開・交流するとともに、生徒指導に関する指導者の力量をさらにアップしていくためこの企画を致しました。ピア・サポートを実践している方も初心者も、また生徒指導面等で悩んでいる方もお気軽にご参加ください。

1 日 時 2013年7月27日(土)

9:20～9:40 開講式

9:45～10:45 実践発表Ⅰ

長野喜美子(北海道八雲高等学校養護教諭)

10:55～11:55 実践発表Ⅱ

吉野さやか(八雲町立落部中学校教諭)

13:00～13:25 北海道支部総会

13:30～15:30 実践発表Ⅲ

伊藤 洋子(東京都公立学校相談員)

15:40～17:40 スキルアップ研修Ⅰ

森 正人(北広島市特別支援教育巡回相談員)  
「特別支援教育から見えてくるもの」

2日目 2013年7月28日(日)

9:00～10:30 スキルアップ研修Ⅱ

齋藤 敏子(カウンセリング学会認定カウンセラー)  
「不登校100%解消への提言」

10:40～12:10 スキルアップ研修Ⅲ

石垣 則昭(登別市立幌別中学校長)

「体罰など力に頼らない子どもの指導方法」

～12:20 閉講式

2 場 所 札幌市教育文化会館 302研修室(札幌市中央区北1条西13丁目)

地下鉄東西線「大通り西11丁目」下車、1番出口から徒歩7分。)

3 参加費 支部会員 4,000円。非会員 5,000円。申込後に指定する支部口座へ振込。

4 申込先 支部事務局 Email; [totoko@ms2.ncv.ne.jp](mailto:totoko@ms2.ncv.ne.jp)

申込者の (1)氏名、ふりがな (2)性別、(3)年齢、(4)勤務先学校名(職名)、  
(5)支部会員は会員番号 をお知らせください。

Eメール環境がない場合は、郵便; 041-0801 函館市桔梗町417-46

日本ピア・サポート学会北海道支部事務局 宛

お問い合わせは、電話;090-3778-8850 (事務局長;齋藤)

5 締めきり 7月20日まで。(ただし、定員になり次第締め切ります。)

6 その他 参加者には「研修証明書」を発行します。トレーナー申請の単位になります。

<裏面もご覧ください>

## 発表者及び研修講師プロフィールと発表要旨

### 【長野喜美子】

日本ピア・サポート学会北海道支部理事、ピア・コーディネーター、北海道八雲高校養護教諭。北海道のピア・サポート活動における草分け的存在であり、歴任校で教職員と共にピア・サポート活動を展開してきた。ピア・サポートの「活動」を見据えた「トレーニング」や「活動」を継続するためのさまざまな配慮と工夫を紹介する。また、ピア・サポートを用いた町内中学校との連携も話題に取り上げる。学校間連携の示唆に富む話が期待できる。

### 【吉野さやか】

八雲町立落部中学校英語科教諭。前任校でピア・サポートを取り入れ人間関係作りに力を入れている先輩教諭の姿を見てきた。そこで自らも本年1月に北海道支部主催の「ピア・トレーナー養成ワークショップ」を受講し、即、3学期中に受け持ちの学級でピア・サポート・トレーニングを実施した。今回発表するのは、4時間分の実践の内容を「意図」「配慮事項」「成果と課題」について、生徒の「ふりかえり」アンケート等のデータ分析をしながら紹介したい。

### 【伊藤 洋子】

日本ピア・サポート学会全国理事、ピア・コーディネーター、元中学校教諭。定年後に東京都公立学校相談員として、小・中学校を中心に子ども主体のピア・サポート活動を展開している。今回の発表では、「子どもピア・サポート活動」が「だれでも・どこでも出来る活動」であることを伊藤氏の長年の実践から語っていただく。本年1月の講座においても「いじめ」対応中心に発表いただいたが時間不足を惜しむ声が多々あった。今回は参加者とワークを取り入れながら充実させたい。

### 【森 正人】

北海道教育大学卒業。養護学校在勤中にアセスメントに悩み、ムーブメント教育・療法に出会う。旧国立特殊教育総合研究所長期研修生の機会を得て、療法士資格を取得。子ども同士の学び合い、支え合いを育てる療育活動に取り組む中、ピア・サポートに共通の「子ども支援の理想」を見出す。現在は小学校勤務。本研修会では森氏が日頃考え実践している内容から、特別支援教育に限らず多くの教員に「教育そのもの」への示唆に富む話が期待できる。

### 【斉藤 敏子】

私立高校教諭、塾経営、養護学校・小学校教諭と勤務校は変わったが、その間、一貫して「夜の教育相談室」カウンセラーとしてボランティア活動をしてきた。子どもたちの悩みを解決したい一心でカウンセリング資格を得、現職のまま大学院等にも学んだ。2年前に公立小学校長を定年退職後、北海道公立学校スクールカウンセラーとして活躍している。本研修会では「不登校は必ず解消できる」という確信を持って語りたいとのことである。「見立て」のグループワークも行う。

### 【石垣 則昭】

日本ピア・サポート学会北海道支部副支部長、ピア・コーディネーター。公立中学校長として荒れる学校を教職員と共に立て直す姿が共感呼び、NHKとフジテレビの特集番組として全国放映された。さらに現場の視点で執筆し好評を得ているコミュニケーション・ハンドブックの第4作目を本年4月に出版した。本研修会ではハンドブックの中からカウンセリングの諸理論に触れ教師が誰しも遭遇する具体的場面の関わり方についてワークショップを中心に進める。